

事務事業名	三つ子の魂育成事業（啓発事業）				担当	健康福祉部 三つ子の魂育成推進室	
政策名	C	思いやりと安心に満ちたみんな元気なまちづくり			電話番号	0285-83-8157	
施策名	2	子育て支援の充実			☐ 実施計画上の主要事業		
基本事業名					事業期間	☐ 単年度のみ	
法令根拠	なし					☒ 単年度繰返（開始年度 1 2 年度～）	
予算科目	1. 一般会計	3. 民生費	2児童福祉費	1児童福祉総務費		☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）	
事業概要	「愛情と思いやりに満ちた三つ子の魂」育成の重要性について平成12年度から啓発している。 ・妊婦～乳幼児の保護者、一般市民対象への啓発活動・講演会を通して三つ子の魂育成の重要性を啓発。 ・有識者、子育て支援者、企業関係者等から広く意見を求め、子育て支援の充実を図っている。						

1. 現状把握の部 （1）事務事業の目的と指標

①手段（主な活動）				⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
27年度実績 ・妊婦や乳幼児の保護者、子育て支援に携わる方、一般市民向け、愛情と思いやりに満ちた三つ子の魂育成の重要性について啓発を行った。 ・三つ子の魂育成講演会は、「子どもが育つ遊びの力」と題し、とちぎふじ発達研究所代表 佐藤俊夫氏に、子どもにとっての「遊び」の意味やその重要性について講演していただいた。 ・安心して生み育てる支援として「子育てガイドブック」や「マタニティカード」を妊娠届出時に配布した。 ・乳幼児を抱える保護者が外出の際に授乳オムツ替え等が安心してできる施設「赤ちゃんの駅」を設置して子育て意識の醸成を図った。 28年度計画 ・前年度と同様				名称	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
				ア 啓発活動や講演会など回数	回	124	115	119	104	120
				イ 啓発資料配布数	枚	4,003	4,465	4,682	4,716	5,000
				ウ マタニティカード配布	枚	733	712	657	675	650
				エ 赤ちゃんの駅	カ所	6	7	10	10	13
				オ 子育てマップ	部	3,200	3,000	3,200	3,200	3,200
				②対象（誰、何を対象にしているのか）＊人や自然資源等 ・妊婦・乳幼児の保護者・子育て支援者・一般市民				⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移		
				名称	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
				ア 市民	人	81,480	81,493	80,698	80,590	79,460
				イ						
				ウ						
				エ						
				オ						
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） ・人格の基礎が培われる胎児期から乳幼児期に、「あたたかい三つ子の魂」を育む重要性を認識してもらう。				⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
				名称	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
				ア 啓発活動の参加人数	人	2,340	2,827	2,871	2,554	2,600
				イ 講演会の参加人数	人	50	54	47	42	100
				ウ						
				エ						
				オ						
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） ・心身ともに健全な育成を図る。				⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
				名称	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
				ア 三つ子の魂を育んでいる割合	%	100	100	100	100	100
				イ						
				ウ						
				エ						
				オ						
(2) 総事業費の推移				単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
			県支出金	千円	0	0	0	0	0	
			地方債	千円	0	0	0	0	0	
			その他	千円	0	0	0	0	0	
			一般財源	千円	1,334	1,393	1,457	1,397	1,496	
			事業費計（A）	千円	1,334	1,393	1,457	1,397	1,496	
	人件費		正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	
			延べ業務時間	時間	490	490	490	490	490	
			人件費計（B）	千円	2,059	1,991	2,068	2,053	2,053	
			トータルコスト(A)+(B)	千円	3,393	3,384	3,525	3,450	3,549	
(3) 事務事業の環境変化・市民意見等										
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？				・全国的に青少年犯罪や乳幼児虐待が後を絶たず、子どもたちを心身ともに健全に育てるためには、乳幼児の保護者や一般市民に、あたたかい三つ子の魂を育むための啓発をする必要が生じたため、平成9年度に「三つ子の魂育成計画」を策定し、平成12年から啓発活動を実施した。						
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？				・景気の悪化から雇用不安などが増大し、子育て環境も厳しい状況である。 ・自己中心的な親が増え、子どもの生活リズムがぐずれ、情緒不安定な子どもたちの姿がみられる。						
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？				・子どもたちの体内時計は、生活のリズムが大切であることを知り、大人の時間と区別しなくてはならないことを知った。（2歳児検診） ・良い子を育てることは、子どもの良さを認めてあげて自信を持たせることを学べた。（にのみや支援センター） ・ミニ講話などを聞くことで、自分の子育てを見直すことができた。（子育て支援センター）						

2. 1 次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか？	☒ 結びついている ☐ 見直し余地がある あたたかい心を育むための啓発活動は、「思いやりと安心に満ちたみんな元気なまちづくり」の政策に結びついている。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	☒ 妥当である ☐ 見直し余地がある 乳幼児期の子どもの育て方、スキンシップの大切さ等を再確認し、これからの世代を支える子どもたちが愛情と思いやりで満ちた「三つ子の魂」を育み健全な市民への成長を願う政策に積極的に取り組んでおり、妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	☒ 適切である ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある 全市民を対象にしており適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地はない ☐ 向上余地がある 啓発事業活動の周知を徹底し、講話会講演会の参加人数の増加を図っており向上の余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☒ 影響がある ☐ 影響がない 「愛情と思いやりで満ちた三つ子の魂」啓発事業の休止は、心身ともに健全な市民の育成に支障がある。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	☐ 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） ☒ 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	☐ 他の事業と統合・連携ができる ☐ 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ （仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 必要最小限の経費で対応しており、削減の余地はない。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか （アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 必要最小限の人件費で対応しており、削減の余地はない。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	☒ 公正・公平である ☐ 見直し余地がある 全市民を対象にしているので公正、公平である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） ☐ 廃止 ☐ 見直し（ ☐ ：目的妥当性 ☐ ：有効性 ☐ ：効率性 ☐ ：公平性） ☐ 統合 ☒ 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の 2 次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1 次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足（説明責任不充分） ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
			コスト																						
			削減	維持	増加																				
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
(2) 2 次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																									
(3) 2 次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☐ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他 2 次評価会議で指摘された事項																								